

しあわせの村の里山を憩いの森に

わの提案に県の助成金350万円

グループわに里山整備助成金350万円 兵庫県が募集していた「22年度里山ふれあい森づくり（住民参画型）事業」に、わの提案したプランが認められ、このほど350万円の助成が決定しました。さっそく、菅田忠志理事をリーダーとするプロジェクトチームが発足、9月から活動を開始しました。

このプランは、しあわせの村内の里山・森林エリアをもっと魅力あるものに再生し、市民や子供たちに楽しんでもらおうとするものです。森林浴や野鳥観察、ビオトープ体験、森林学習が気軽にできる散策コースの整備、説明看板やベンチの設置などを、4エリアに分けて、5年がかりで進めます。初年度は、まずシルバーカレッジ北側に広がる里山の整備（Aゾーン＝写真）に取り組みます。

現在、しあわせの村内では豊かな自然を利用して



キャンプ場や散策路が設けられ、野鳥観察なども広く行われていますが、村内を里山エリア（A）、ビオトープエリア（B）、森林浴エリア（C）、野鳥観察エリア（D）の4ゾーンに分け、再整備して快適な自然学習の場にしようというのが、今回の事業の狙いです。

プロジェクトチームは、グループわの環境部会を中心に、里山クラブや里山和楽会、ビオトープの会、森の仲間、野鳥と自然観察会、神戸ホテルの会などで構成。しあわせの村を運営するこうべ市民福祉振興協会や、カレッジ事務局も加わってまいります。10月中にはおおよその全体像とスケジュールを発表する予定です。

リーダーの菅田理事は「子供たちの自然環境学習の場として、市民の憩いの場として、魅力ある里山にしたいですね。実際の作業は、生環コースのカリキュラムにも組み入れてもらって、カレッジのOB・現役が総力をあげて取り組む」と話しています。

2 グループに感謝状

ケナフの会

牛乳パックなどを利用した紙漉き活動をおこなっているケナフの会（長谷川博代表）に9月15日、神戸市社会福祉協議会から感謝状が贈られました。通所施設・いかり共同作業所（中央区）で、7年前から行っている紙漉き、2年前から始めた色紙づくりなどの指導に対するものです。活動は毎月第2水曜に、会員7～9人が作業所に通って教えています。

色紙作りは会員のアイデアで生まれました。「できた紙に絵を描いたら」というわけで、絵心のある松井さんが中国の少数民族に伝わるトンパ文字をイラスト風にあしらった原画を描き、通所者と一緒に作成しているものです。一般に販売したところ好評で、注文に追われ何回も追加制作したほど。絵柄は「虎・夢」の2種で1枚400円。問い合わせは長谷川（412-8446）まで。



もみじ会

知的障害者の施設・明生園（しあわせの村内）で10年間にわたってボランティア活動をしているグループわ「もみじ会」（宮城智子代表）に神戸聖隷福祉事業団から7月31日、感謝状が贈呈されました。会員は現在7人。月1回、4人のローテーションを組んで施設へ出かけ、入所者と一緒に歌ったり、ボール転がしをしたり、体操代わりに阿波踊りや炭坑節を踊っています。宮城さんは「こちらも、相手の障害者も高齢化が進み、思うようなお世話ができませんが、皆さんの笑顔に元気をもらっています。後継ぎをしてくださる仲間が、ぜひほしい」と話しています。問い合わせは宮城（電話521-3391）まで。



（写真は明生園での活動風景）